

Q. 楽譜にない音が聞こえるんだけど...

それがいわゆる「装飾音」と呼ばれているものでしょう。「カット」や「ロール」、「スラー」など色々あるものの、文字で理解するのはとても難しいですね。実際の演奏をよく聴いてほしいのですが、要は、強調したい音や、長く続く1つの音を、別の音で区切ったり、ころがしたり、なめらかに続けたりして、表情をつける方法なのです。

いい教則本には必ずその説明があるし、レッスンを受けても、最初からそのやり方を教えてくれるはずです。楽譜に書いてあるのは、その曲の骨格だけで、それにどう肉付けするのは演奏者にかかっているのです。装飾音を、「主旋律にプラスされているもの」と考えるよりも、「旋律と不可分」と考える方がいいのかもしれない。

楽譜によっては、どこに装飾音を入れるのかを書いてあるものもありますが、基本的には、どこにどんな装飾音を入れるのか、また入れないのかは、その人の自由です。（もちろん効果的な入れ方の基本はあります。いろいろな人の演奏を参考にしてみてください。）様々な意見があるでしょうが、歌の微妙なニュアンスを楽器で表現するためのテクニックだと考えてもいいのではないかと思います。



Q. いろいろな種類の曲があるようですが...

CDなどの曲の後に、(reels)とか(jigs)と書いてあるのをよく見ると思います。それぞれリズムが違うのですが、これに関しても多分に感覚的なもので、楽譜では表記しきれない微妙なノリの違いがあります。

「リール」(4/4拍子)、「ジグ(ダブル・ジグ)」(6/8)、「ポルカ」(2/4)、「ホーンパイプ」(4/4)などが代表ですが、「スリップ・ジグ」(9/8)、「スライド(シングル・ジグ)」(12/8)、「フリング」(4/4)、「マズルカ」(3/4)なども味があっていいですね。そういった曲は、全てダンス・チューン(曲)と呼ばれて、ダンスと密接な関係にあります。

あと、一定のリズムでは演奏されない「スロー・エアー」というタイプのゆっくりした美しい曲や、オキャロランというバロック時代の盲目のハーブ奏者が作った曲もよく演奏されます。エアーはその元に歌があることが多いので、歌をよく聴いて、その感じをホイッスルで再現するつもりで演奏してみるといいでしょう。

Q. どんなプレーヤーがいるの？

これを書きだすとキリがないのですが、ティン・ホイッスルと言えまづ、マイコー・ラッセルという人がいます。簡単そうにヒョウヒョウと吹いていますが、味わい深い演奏で、あの境地に達するのは至難の業です。（お母さんも演奏していたコンサーティーナの影響を受けているようです。）

メアリー・バーギンやショーン・ライアンなどはティン・ホイッスルの名手として有名ですが、あまりに見事な演奏で、気が遠くなりそう... それから、ブライアン・ヒューズという人も凄腕ですし、ヴィニー・キルダフという人もホイッスルのCDやレッスン・ビデオを出しています。

Micho Russel



Michael McGoldrick



Kevin Crawford



Breda Smyth

ホイッスルを前面に出しているバンドは少ないのですが、ブランクシティやボシー・バンド、それにルーナサ、ダヌー、プロヴィデンス、キャリコやシュリーヴ・ノーツなどがやっている曲はいいですね。



Vinnie Kilduff

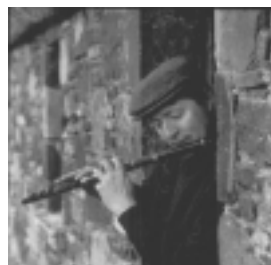


Brian Hughes



Mary Bergin

ただ、マイコーもそうですが、ホイッスルだけの人よりも、フルートやイリアン・パイプスなど他の楽器も演奏する人が多いようです。カホル・マッコーネル（ボーイズ・オブ・ザ・ロック）やジョウニー・マッデン（チェリッシュ・ザ・レディーズ）はフルートだけでなくホイッスルを演奏する頻度も高いようです。（ジョウニーはホイッスル中心のCDも出しています。）また、ホイッスルは少しですが、ミック・オブライエン、カルム・オドネル、ポール・マクグラタン、ケヴィン・クロフォードやマイク・マクゴールドリックなどの演奏は素晴らしいですね。



Colm O'Donnell



Paul McGrattan



Mick O'Brien



Lunasa



Danu



Sliabh Notes

オシーンの“Over The Moor To Maggie”は、セッションでよくやる曲をティン・ホイッスルでやっているのので参考になるでしょう。また、セッションの録音として、“Music At Matt Molloy's”と“Maiden Voyage”は、演奏・選曲・雰囲気とも抜群です。あと、ライブではありませんが、スライゴーの地元のミュージシャンの演奏をパブなどで録音した、“The Mountain Road”というコンピレーションも素晴らしい内容です。



Oisín

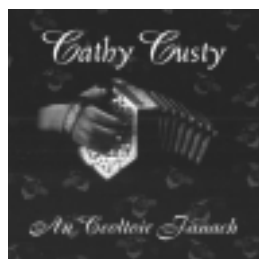


“Music At Matt Molloy's”

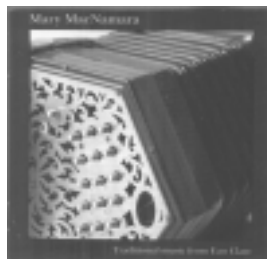


“Maiden Voyage”

また、ちょっと古めの録音ですが、マイコーをはじめ、ウィリー・クランシーやジョシー・マクダーモットなどの演奏を集めた、“Totally Traditional Tin Whistles”(Ossian) というCDも出ています。



Cathy Custy



Mary MacNamara



“Totally Traditional Tin Whistles”

最後になりましたが、笛系だけでなく、フィドルやコンサーティーナなど、いろいろな楽器の演奏を聴くのも大切ですね。特に、ゆったりしたコンサーティーナの演奏は参考になります。メアリー・マクナマラやキャシー・カスティの演奏は素朴で、ジグなど独自のリズムも分かりやすく、いい感じです。

地域や年代によっても、様々な演奏がありますが、できるだけ色々なタイプの演奏を聴いて、自分の好みを探してみてください。（もちろん生で聴ければ申し分ないのですが、．．．）

Q. ホイッスルの魅力って... ?

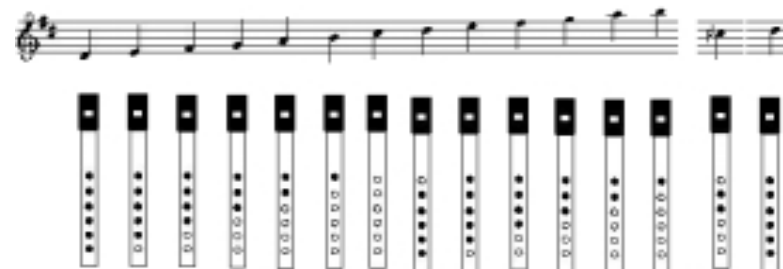
それぞれの楽器には、それぞれの良さがあるし、ある楽器を選ぶにはその人なりの理由があるので、楽器自体に優劣があるわけではありません。ただ、ホイッスルの魅力としては、持ち運びが簡単とか、安いとか、音が出しやすいということもありますが、やはり「息」を使うところでしょうか。自分の息を使って、空気を震わせる感覚がとても心地よくて、「自分も自然の一部なんだ」という一体感を感じる瞬間があります。

ただ、練習を続けていると、よりたくさんの曲を覚えることとか、より速く吹くこととか、より高度なテクニックを身につけることに心を奪われてしまいます。もちろん、そういったことも大切だと思いますが、いつまでも「あの感覚」を忘れずにいたいものです。



～～ 付 録 1 ～～

♪「D」のキーの音階と指使い



本文でも書きましたが、高い方のDは、低いDと同じように、穴を全部押さえて強く吹いても出ますが、この表のように1番上の穴をあけた方が音が出しやすく、比較的スキップとした、いい音が出るようです。ただ、運指が難しくなる場合があるので、どちらの押さえ方でも、きれいな音が出せるように練習しておくといいでしょう。どちらを使うかは、好みの問題です。

C#で指を全部離すと不安定になるので、右手（下の方の手）の小指を管に添えるといいでしょう。また、下の方の3つの穴なら、押さえていても、音に影響はほとんどありません。右端のCの音の押え方は、「G」や「Em」「Am」のキーで使います。

～～ 付 録 2 ～～

♪インターネットのリンク集

http://www.geocities.co.jp/Hollywood/4160/subaru/subaru_onin.htm

* この小冊子の元になった「すばる座楽語館」の中の楽器紹介のコーナー。
リンクするのに便利。他にもCDレビューのコーナーや映画の紹介などもあります。
その本家のさらさんの「ペロン10」もユニークな内容で、読み応え充分です。

<http://www.asahi-net.or.jp/~pt9t-fjt/celt.html>

* 「ケルティック・ミュージック・オンライン」
いわゆる「ケルト音楽」に関する情報は、まずここから。リンクも充実。

<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~li004973/flute.htm>

* 「ハタカフェ」のウッド・フルートのコーナー
関西で活躍中の若手フルート・プレーヤーによるアイリッシュ・フルートに関するとても詳しい内容。装飾音に関しては、ホイッスルとほぼ共通。リンクも充実。

<http://www.jade.dti.ne.jp/~shuri/otterindex.htm>

* 「名古屋愛蘭土音楽通信OTTER」
名古屋市周辺のアイリッシュ音楽に関する情報紙のウェブ版。
楽器の話やイベント情報も。特にエッセイの内容が素晴らしい。

<http://www.mmjp.or.jp/music-access/kinder/ongakukan.htm>

<http://www.edo.toride.ibaraki.jp/edotori41/shiryou4.htm>

* 「ドレミ・・・」について、目から鱗...

～～ 付 録 3 ～～

* セッションが楽しめるお店、楽器・CDの買えるお店など

京都： ウッドノート （ ウッディな自然派喫茶店 ）

京都市左京区一乗寺大原田町 23-3 Tel: 075-722-9302

セッション；毎週月曜日 & 第1 金曜日 20:00 ～ （ チャージ200 円 ）

フィドル・ホイッスル・バリロンの練習会や花見など、色々な企画有
ホイッスル、CD、教則本も販売 / 壁面をギャラリーにした個展も可
自然食・和菓子・野草・野鳥・サイクリングに興味のある方も是非

http://www.geocities.co.jp/Hollywood/4160/irish/irish_se.htm

京都： field （ 京都で初めてのアイリッシュ・パブ ）

京都市中京区烏丸錦東入る江戸川ビル2 F Tel: 075-231-1213

セッション；毎週火曜日 & 月2 回土曜日 20:00 ～ 毎回充実！

楽器・教則本・ビデオ・CD・楽譜も豊富 ホイッスル・レッスン有

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/minpochi/>

大阪： アムリッタ （ インド 茶屋 & 酒場 けどセッションはアイリッシュ ）

大阪市中央区石町 2-3-9 天満橋コードビル 1F Tel: 06-6944-9478

セッション；第2 & 4 木曜日 19:30 ～

本場の伝統をしっかり受け継いでいる山口智さん（フィドル）主催

アムリッタ；<http://www.log-house.co.jp/home/>

ヤマグチ・ミュージック；<http://www.kcn.ne.jp/~yamaguch/>

大阪： マーフィーズ （ アイリッシュ・パブ ）

大阪市中央区東心斎橋 1-6-31 リードプラザ心斎橋6 階

Tel: 06-6282-0677 セッション；毎週水曜日

大阪： 我楽茶堂 （ チャイ屋さん「 がらくちゃどう」と読みます ）

大阪市中央区南船場 4-10-29 さつきビルB1 Tel: 06-6252-5911

セッション；月1 回日曜日 19:00 ～

兵庫： カークスイン （ 英国風喫茶 & パブ 紅茶は直輸入 ）

川西市中央町 3-7 Tel: 0727-55-4981

セッション；第3 日曜日 19:00 ～

<http://www.nttl-net.ne.jp/damco>

愛知： バンフィーズ （ 名古屋初のアイリッシュ・パブ ）

名古屋市中種区覚王山通 9-19 覚王山プラザ地下1 階

Tel: 052-763-6800 ライブ；毎週土曜日 19:30 ～

http://www.jade.dti.ne.jp/~shuri/menu/irishpub_bumphys.htm

愛知： カフェ・カレドニア （ 喫茶店 ）

春日井市白山町 4-6-9 Tel: 0568-52-1117

ミュージック・サークル；第1 土曜日 19:30 ～ （ 350 円 お茶代 ）

ライブ；第3 土曜日、マスターの平手さんは、滋賀県高島町で

8 月末にある、アイリッシュ・ミュージック・キャンプの企画者

http://www.jade.dti.ne.jp/~shuri/menu/cafe_caledonia.htm

* 内容が変更になっている場合もあるので、セッションや催しは必ず
問い合わせをしてから行ってくださいね。

< 通信販売店 >

http://www.asahi-net.or.jp/~pt9t-fjt/celt_cd4.html#anchor183121 ☎

CD： タムボリン （ 船津潔さん ）

〒 879-5101 大分県湯布院町塚原 135-148

Tel: 0977-85-5217 Fax: 0977-85-5215

Email；tamb@ma3justnet.ne.jp

ヨーロッパの伝統音楽関係、SSW系が質・量ともに非常に充実！

まずは、200 円分の切手を同封してカタログを請求 （ 新譜に強い ）
カタログのコメントや読み物（かわらばん）が毎回楽しみ

楽器： グレンミュージック （ 吉田文夫さん ）

〒 665-0022 兵庫県宝塚市野上 4-8-8

Tel&Fax: 0797-71-6067 Email；glen@ce.mbn.or.jp

ホイッスルをはじめ、バリロン、ボタン・アコーディオン、
コンサーティーナ、ブズーキ、などの楽器や、教則本・ビデオ、
楽譜、CDなど、アイルランド音楽に関する幅広い品揃え
商品リスト 希望の方は、200 円切手同封で請求

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/dhgaki/glemu/glen.htm>

CD： クリアースポット （ 奥成一志さん ）

大阪市中央区難波千日前 6-20-10C Tel&Fax: 06-6630-6686

店舗販売も有 14:00 ～ 21:00 （ 火曜日定休 ）ホイッスルやビデオも

<http://www.interq.or.jp/osaka/cspot/index.htm>

楽器： アーリー・ミュージック・プロジェクト （ 吉原正巳さん ）

〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-23-1-1207

Tel&Fax: 03-3375-9566

様々な民族楽器や古楽器専門 ホイッスルも充実

http://www01.u-page.so-net.ne.jp/fa2/emp/EMP_wind1.html#anchor56352

～ おわりに ～

最後まで読んでいただいて、ありがとうございます。

この小冊子を書くにあたっては、様々な文献やインターネット上の情報、それに何より、直接お話をうかがうことのできた多くの方々のご意見や情報を参考にさせていただきました。本来ならば、お名前をあげて感謝の意を表したいところですが、キリがなく、割愛させていただきます。ほんとうにありがとうございました。

ここでの内容は、「ホイッスル」や「アイルランドの伝統音楽」について、ある一つの視点で書いたものに過ぎません。ホイッスルをはじめ、色々な楽器の演奏や歌やダンスを通して、それぞれの人が、広くて深いアイルランド音楽の世界の魅力を、その人なりに見つけていただけたらと思います。



初心者へのアイリッシュ伝統音楽案内
楽器編～その1～「ティンホイッスルの本」 ver.1.5

協力：すばる座楽語館

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/4160/subaru/subaru.htm>

協力：Sarahのぺろん10

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood/4160/index.html>

発行：2001/05/15(初:2000/09/01)

文：純 junfumi@cc.mbn.or.jp

制作・編集：Studio “G” / PHS:070-5501-6335

606-8084 京都市左京区修学院薬師堂町25-5

Email：gingerw@mbox.kyoto-inet.or.jp

☆この小冊子を読まれた感想、お気づきの点などお知らせ下さればありがたいです。

また、ここに挙げた以外のホームページやお店のデータなど

ご存知の方がいらっしゃいましたら、ご教示下さい。